

2024 年度 健康経営レポート

1 正職員の勤務状態

2024 年度末の正職員数は 124 名（女性 82 名、男性 42 名）で平均年齢は 41.7 歳（女性 40.5 歳、男性 44.0 歳）、平均勤続年数 12.5 年（女性 11.2 年、男性 15.0 年）でした。前年度と比較すると、平均年齢（41.4 歳→41.7 歳）、平均勤続年数（12.8 年→12.5 年）となりました。

また、2024 年度中の平均月間総実労働時間は 152 時間、平均月間所定外労働時間は 10 時間、平均年次有給休暇取得日数は 16.2 日、平均年次有給休暇取得率は 85%となっています。特に 2023 年度の平均年次有給休暇取得日数は 14.5 日、平均年次有給休暇取得率は 82.3%だったので、前年度を上回る高い水準を示しています。ゴールデンウィークやお盆時に計画年休を設定し、長期間の休暇取得を奨励してきたことも効果を上げています。

法定外労働月 45 時間超の年間延べ発生数は 16 名、同 80 時間超の年間延べ発生数は 0 名となり、ここ数年低い水準で推移しています。特に力を入れてきた「長時間労働をなくし私生活を充実させる」目標を達成しつつあります。

女性職員で育児休業を取得した者は 0 名、育児のための時短勤務制度（対象児童が小学校 3 年修了時まで）を利用している者は 5 名で、出産や育児を

理由に退職した者はありません。介護休業および休暇制度の利用者はありませんでした。職員アンケートの結果を参考に介護休業および休暇制度の周知徹底を図り、より取得しやすい制度へと整備していく予定です。

また、労働災害や死亡に関わるような災害は発生していません。

2 健康診断の実施とフォロー状態

今年度も、正職員および契約職員（合計 171 名）の健康診断受診率は 100% でした。40 歳以上の者は上部消化管内視鏡検査や婦人科健診、各種超音波検査等を含む人間ドック項目を、39 歳以下の者は生活習慣病予防健診に本人が希望する多くのオプションを加えて（原則自己負担なし）受診することが出来、検査結果によって診療所や健康支援室でフォローが可能な者は、これも自己負担なく経過観察や精密検査、治療を行っています。また、診療所では必要に応じて外部専門医療機関へ紹介を行い、精密検査結果や治療経過を把握しながら職員の健康管理に役立てています。診療所内外での精密検査受診率は 90%、治療継続率は 80%を超えています。

健康支援室においても特定保健指導（指導希望者 100%）や健康相談などの個別指導を継続して実施しています

3 健康診断の結果から

2024 年度中に健康診断を受診した者で、40 歳以上で問診にすべて回答して

いる 91 名のうち適正体重維持者率は 68.8%、喫煙率は 14.0%、運動習慣者比率は 22.6%、睡眠により十分な休養が取れている者の割合は 52.7%、飲酒リスク者率は 26.9%、血圧リスク者率は 1.1%、血糖リスクと考えられる者の割合は 0.0%、糖尿病管理不良者率 1.1%となっています。

ここ数年、診療所と健康支援室、総務部担当者が連携して職員の疾病重症化予防に力を注いでおり、精密検査受診率や治療の継続率は高い水準を示し、予防効果を確認できるが、少数ではあるが特定の職員の改善効果が低く、重篤な高血圧や糖尿病、脂質異常、肥満などいくつかの所見を持ち続けている。今後は診療所の産業医や医師、保健師、健康支援室、総務担当者と当事者だけでなく、当事者の所属する部署責任者も加わり、就業時間内に定期的に継続して治療、生活習慣、就業内容などのフォローを行い、改善効果を高めて対象者をゼロにする事を目標に施策を実行して行く。

4 ストレスチェック実施

2024 年度も全職員を対象にストレスチェックを実施し、回答率は 72.5%でした。設問「仕事に満足している」に対するポジティブ回答率は 56.5%、設問「働きがいのある仕事だ」に対するポジティブ回答率は 66.1%でした。(満足、どちらかと言えば満足と回答) また、回答者のうちの高ストレス者率は 5.5%でした。

5 アブセンティーイズムおよびプレゼンティーイズムについて

アブセンティーイズムは、病気や心身の不調による欠勤や休職を指し、企業の生産性に大きな影響をあたえる重要な指標です。2024 年度に傷病休職制度を利用して休職した職員はゼロであったが、病気や心身の不調を理由とした欠勤や有給休暇取得日数は把握しきれていない。このため、職員教育を実施してアブセンティーイズムに対する理解を深めてもらい、病気や心身の不調による欠勤や有給休暇取得申請時にその旨を進んで申告してもらい、内容把握に努めることにより生産性の低下を未然に防いでいきたい。

プレゼンティーイズムとは、心身の不調を抱えながらも出勤し、業務を続ける状態を指し、その結果、生産性が低下することがあり、出勤しているにもかかわらず十分にパフォーマンスが発揮できない状態を指します。

現在、当財団ではプレゼンティーイズムの計測を実施しておりませんが、職員の満足度の高い職場整備を行っていくうえで、積極的に活用していきたいシステムと考えています。具体的にはプレゼンティーイズム測定方法として「APQ」(Single-Item Presenteeism Question 東大 1 項目版)を用い、他のアンケートと組み合わせて職員の満足度の高い職場環境の整備に役立てていく予定です。